

ふれあい

NO. 245

2013. 11. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会
大阪市天王寺区東高津町 12-10
大阪市立社会福祉センターB1F
発行責任者 笹野井 庸夫
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623
<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

第62回全日本手をつなぐ育成会全国大会 〔大分大会〕が開催されました（前編）

11月9日（土）から10日（日）にかけて大分県別府市において第62回全日本手をつなぐ育成会全国大会〔大分大会〕が開催されました。

大阪市育成会からは7名の会員と5名の職員が参加しましたので、今月号と来月号の2回にわたり大会レポートを掲載させていただきます。



第2分科会【働く】に参加して 港第二育成園 主任 横山 裕章

育成会全国大会では、第2分科会の【働く】に参加させていただきました。

まず、基調講演として、滋賀県社会福祉事業団の北岡賢剛氏より、障害のある方が製作する芸術作品が【働く】ということに繋がっているというお話がありました。現在、ヨーロッパの各国では、日本の障害のある方が製作する作品への評価が非常に高く、『オール・ブリュット』（美術に関する専門的な学びを受けてはいないが、作者の心からの表現が感じられる作品）として、今後3年をかけてヨーロッパの全ての国

で、展覧会が開催される予定とのことでした。また、こういった作品を元にして、企業側がカバンやシャツなどへ商品化して販売を行い、作品の著作権を持っている本人へお金が入るといった動きが全国で増えてきているとお話もありました。

次に、提言として、日田市手をつなぐ育成会の橋本眞市氏、藤沢市手をつなぐ育成会の西村玲子氏より、親の立場から考える【働く】ことについてのお話がありました。橋本氏からは、本人の思いに寄り添いながらも、『親は社会資源の一つ』と自らが認識をして、働くことへのサポートをしていく必要性を感じるといったお話がありました。また、西村氏からは、障がいの重い人であっても、例えば毎日通っている事業所の中で、一見簡単なお手伝いのようなものであっても、本人に「役に立っている」「自分に任されている」という意識を持たせることができるのであれば、それはその人にとっての【働く】であり、そのような経験の場などが多ければ多いほど、本人の可能性は広がっていくのではないかとお話がありました。

提言の最後に、北九州障害者しごとサポートセンターの長田雅行氏より、サポートセンターでの取り組みを通しての【働く】についてのお話がありました。会社で働く・働き続けるためには、「何故働きたいのか？」という意欲の積み重ねを図ることがとても大切であるということを強調されていました。CDや本を買い、家族と月に1回外食に行きたいなど、何でも構わないので自分が働く意欲・目的があると、仕事で辛いことがあった時でも頑張ることができるモチベーションに繋がるのとのことでした。また、サポートセンターでの支援を受けて就職し、就職後の支援を受けている人の数は年々増える一方なのに対し、支援を行うスタッフの数は増えていないとお話がありました。これは、サポートセンターに限らず、全国各地の就労支援を行っている機関・事業所が抱えている課題であり、今後本人が会社で働き続けることを支援していくために、国の施策として反映されるよう働きかけ